

「日本放射光学会創立20周年記念シンポジウム・式典」報告 2

渉外幹事 繁政英治 (分子科学研究所 UVSOR)

日本放射光学会の創立20周年を記念した事業として、記念シンポジウム(市民公開講座)及び記念式典が、幹事会を中心とする企画委員会によって立案され、放射光学会年会・合同シンポジウム(JSR09)開催期間中の2009年1月10日(土)の午後、東京大学安田講堂において盛大に開催されました。前日の小雨模様から一転した快晴の穏やかな天気の下、放射光学会員はもとより、東京並びに東京近郊のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に所属する高校生や一般市民の方々が多数来場され、約700名もの参加者を得ました(写真1)。この事業の目的は、学会創立20年という節目を迎えるにあたり、本学会員のこれまでの活動により目覚ましい発展を遂げた“放射光科学”の社会的有用性を広く国民に周知することです。尾嶋実行委員長のリーダーシップと高田実行副委員長の行動力、現地実行委員の的確な準備と臨機応変な対応など、関係された皆様の多大なるご尽力により成功裏に終わることが出来ました。以下に当日の様子を報告させていただきます。

記念シンポジウムでは、数ある放射光科学の最新の成果

の中で、特に市民生活との繋がりが深い、或いは一般の方の興味を引くことが期待される、物質、安心安全、及び生命の三つの分野を選定し、当該分野でご活躍中の三名の方を講師として迎えました。両宮会長の放射光科学の簡単な紹介を含む挨拶に引き続き、青山学院大学の秋光教授による「新しい超伝導体を追い求めて」(写真2)、科学捜査研究所の元所長、二宮氏による「安全安心な社会のために」(写真3)、大阪大学の難波教授による「バイオとナノマシンの融合」(写真4)、の三つの講演が行われました。多様な分野に亘る放射光科学の有用性を端的に示す研究成果についての講師陣の分かり易い話に、会場を埋めた聴衆は熱心に聞き入っていました。特にSSHの高校生達は、非常に大きな刺激を受けた様子でした。

記念シンポジウムに引き続き、東京大学の小宮山総長、文部科学省の倉持審議官、スタンフォード大学のWinick名誉教授、台湾国立放射光センターのLiang所長(AOFSRR副会長)、及び関連の13学会から会長を来賓として迎え(写真5)、創立20周年記念式典が行われました。



写真1 記念シンポジウム会場の様子



写真3 二宮氏の講演



写真2 秋光教授の講演



写真4 難波教授の講演



写真5 式典時の来賓席の様子（祝辞を頂いた三名とAOFSSR副会長のLiang博士のほか、日本医学物理学会、日本液晶学会、応用物理学会、日本加速器学会、日本結晶学会、日本結晶成長学会、日本高圧力学会、日本鉱物科学会、高分子学会、日本中間子科学会、日本中性子科学会、日本分析化学会、日本放射線化学会の13学会長にも参加して頂いた。）



写真8 祝辞を述べる小宮山総長



写真6 式典時の壇上の様子（歴代会長席）



写真9 祝辞を述べる倉持審議官



写真7 雨宮会長の挨拶



写真10 Winick先生の祝辞

12名の歴代放射光学会長（写真6）、放射光科学と関係の深い研究所や研究施設の責任者、さらには企業展示等で学会活動を支援して頂いている企業の代表者の方々も来賓として参加されました。尾嶋実行委員長の司会進行の下、雨宮会長の開会の挨拶（写真7）の後、小宮山総長（写真8）、倉持審議官（写真9）、Winick先生（写真10）が来賓の祝辞を述べられました。放射光学会が日本の科学・技術の発



写真11 佐々木先生の挨拶

展に対して20年に亘り果たしてきた役割や国際的な貢献，特にアジア・オセアニア地区において果たしているリーダーシップの重要性等について述べられました。列席された一般聴衆のために，英語で行われた Winick 先生の挨拶は，尾嶋実行委員長により日本語でその概略が説明されました。Winick 先生の挨拶は，前半こそ事前に伺っていた内容と一致するものでしたが，後半の部分は全く別の話題が含まれており，日本語解説係の尾嶋実行委員長は壇上で大いに慌てられたそうです。しかし，そんな様子は微

塵も感じさせない流暢で分かり易い説明に，一般聴衆の方々にも，放射光学会の発展の経緯と国際貢献の大きさについて理解して頂けたと思います。最後に，元放射光学会長の佐々木泰三先生が，放射光学会の更なる発展への期待と激励を含む挨拶を行われ（写真11），記念式典は盛況のうちに終了しました。その後，20周年記念式典の祝賀ムードは，JSR09の懇親会へとスムーズに引き継がれ，全ての記念事業を恙なく終えることができました。